

## ケアマネジャーのお仕事サポート

### テーマ

## 「適切なケアマネジメント手法」実践するために 一部改正された課題分析標準項目(23項目)との関連を考える。⑫

アセスメントから課題分析する課題分析標準項目(23項目)は、必須ですよ。

2025年3月号から標題にある、一部改正された課題分析標準項目(令和5年10月16日に通知された介護保険最新情報Vol.1178とVol.1179)と、適切なケアマネジメント手法基本ケア項目との関連を、一緒に考えていきましょう。今回は12回目です。

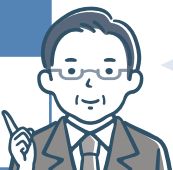
課題分析(アセスメント)に関する項目は、**No.10**から**23**です。

今回は**No.21標準項目名「家族等の状況」**と、適切なケアマネジメント手法基本ケア項目との関連を、一緒に考えます。



### No.21 標準項目名

「家族等の状況」



No.21の「適ケア」基本ケア関連項目は  
**40、41、42、43、44**です。

### 項目の主な内容(例)

本人の日常生活あるいは意思決定に関わる家族等の状況(本人との関係、居住状況、年代、仕事の有無、情報共有方法等)、家族等による支援への参加状況(参加意思、現在の負担感、支援への参加による生活の課題等)、家族等について特に配慮すべき事項に関する項目

### 想定される支援内容

上記番号を確認してください。

### 関連項目の捉え方

例として「基本ケア項目40 家族等の生活を支える支援及び連携の体制の整備」の「相談すべき専門職」を参照し、医師、看護師、PT、OT、ST、社会福祉士・MSW、介護職と協働して関連する項目のアセスメント・モニタリングを実践していただければと思います。



## 支援の概要、必要性

- 日々介護に携わっている家族介護者の不安とストレスを軽減し、家族介護者自身の生活の継続を実現するためにも、家族等に対する受容の支援とともに、日々実施している介護に対するねぎらいや、一人で抱え込まなくて良いようにするための社会資源の紹介といった支援が重要になる。
- 家族介護者が感じる不安を緩和できるよう、日々の介護に対する情緒的支援（ねぎらい）を提供する。
- また、家族等自身の生活のリズムが保たれるよう、家族等の生活を捉えたうえで、その生活リズムに対する影響を小さくできるような社会資源を紹介する等の支援を行う。

## 課題分析標準項目(例)の家族等による支援への参加状況 (参加意思、現在の負担感、支援への参加による生活の課題等)

- 本人の尊厳を尊重する観点から、できる限り今の生活を継続できるようにまずは、本人の意向を把握するが、介護に関わる意思決定には、本人自身に加えて家族等(キーパーソン)の意向を把握すること。
- 家族等が現在抱えている不安・恐怖、ストレスの状況、意思決定支援に対する家族等の理解度、EOLに向けて本人が感じている不安・恐怖、ストレスの状況、EOLに対する家族等の意向を把握すること。
- 本人や家族等の将来の生活の意向に応えうるフォーマルなしくみ(例:成年後見、地域権利擁護事業等)・家族等に対する支援(相談、不安や悩みの解決など)を提供しうる地域の社会資源の内容情報提供。
- 将来にわたる生活の継続のために活用可能な地域資源(インフォーマルサポート等含む)が存在すること、またその情報を提供する等の支援体制を整える。
- 家族等が一人で抱え込まなくて良いように、地域の近隣住民や交友関係者の理解を高めておくことが重要である。
- その地域における認知症に関わる専門的な社会資源の状況(認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員、認知症サポーター、認知症カフェ等)
- 同居家族だけでなく市外、県外にいる子息にも認知症の理解、疾患の理解をしてもらい、いまとこれからの本人の症状、状態も情報共有することが重要である。



(参考)  
適切なケアマネジメント手法 基本ケア

今回は、「居住環境」について、  
一緒に考えましょう。



執筆者

**木村 隆次** きむらりゅうじ

薬剤師

介護支援専門員指導者一期生

一般社団法人 日本介護支援専門員協会名誉会長

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長(初代)として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、日本介護支援専門員協会名誉会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。